浜松
南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

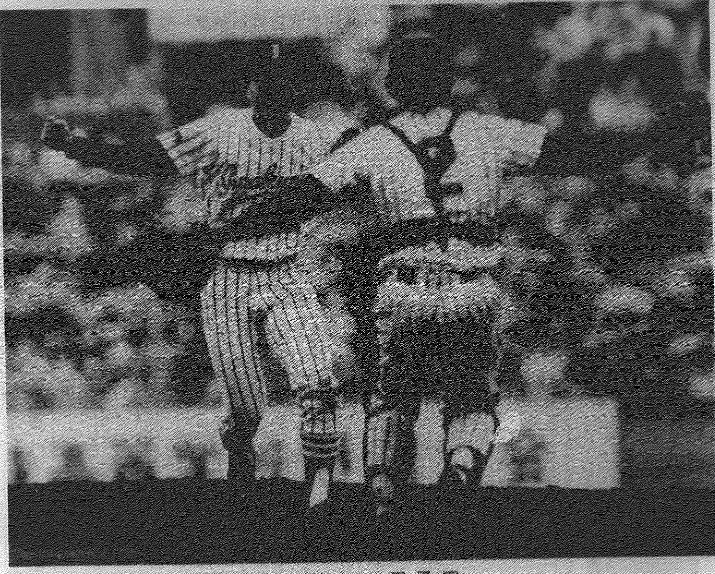
校訓
最善を
尽くそう

TO HAVE OR NOT TO HAVE

今、決断の時

「野球部創設」アンケート中間報告

「野球部創設については前向きに検討したい。生徒諸君の意向が『作るべきだ。作ってほしい。』に集約されていることは知っている。一度、君たちの生の声を聞いてみたい」（南校新聞第七三号）という学校長の発言を受けて、このほど生徒会執行部が野球部創設の是非を問うアンケート調査を実施した。最終結果がまとまるにはまだまだ日時を要するとのことだが、中間データを基に現時点における動向をさぐってみた。



高校球児憧れの甲子園

それによれば、予想通り、「野球部創設」を支持する意見が三分の二に達し、反対派を大きく上廻っている。

「全校揃って応援に行き、グランドとスタンドが一体になって戦い、勝っても負けても涙する感激を味わいたい。」

「現状の沈滞ムードを一掃する起爆剤になるのではないか。」

「このままでは校歌も知らずに卒業していってしまいそう。」

「『今日は浜松球場だ。同じクラスのAがこの前の試合では不調だったので心配なンだよな。俺たちの声援で立ち直らせてやるンだ。じゃあな』と去っていく友と別れて補習に向う時のペダルの重さ。」……

支持の理由は十人十色だ。

しかし、春、夏の甲子園大会が国民行事化している今日、自校の不参加に物淋しさを感じている点では共通していよう。開校以来、野球部以外の部活で頑張らせる、というのが本校の特色と説明されてみても、それは時流に背を向けた、といわば自虐的行為にしか映らない。

ところでたとえ中間データとはいえ、今回注目に価する傾向があらわれている。それは「野球部創設」への支持率の低さだ。これまで新聞部その他の調査では「野球部創設」が現状改革の旗手にあげられ、生徒会誌「波濤」でも常に八〇パーセントを越す支持を集めてきていた。

ところが今回は六十七パーセント。その差十数パーセントに意味があるのか、どうか。

即断は避けるべきだが、今回の支持率の低下が、即生徒の「野球部創設」への熱意の減少を意味するものと解すのは短絡的にすぎよう。それは今回の調査の(2)創設するとすればどのような問題があると思いますか、の問いかけにほぼ全員が、練習場はあるのか、部員の確保はどうするのか、予算にそれ程余裕があるのか、を心配していることでも推測できる。

つまり、既設の部に属する人たちが野球部が創設されることによって生ずる不利益を心配し、反対に回ったとみえなくもない。その意味からいけば、従来の調査時より「野球部創設」が一段と現実味をおびた結果が、支持率の低下の一因といえるのではないか。

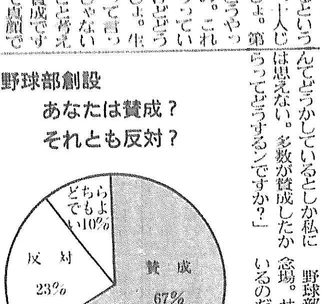
総論賛成、各論反対は利害を異にする集団にあるは常。要はこうした不利益を他に及ぼさない配慮、施策をいかに講ずるかにあり、問題はその次元に移っている、といっていいのではないか。

さらに問題は次のような声。

「他校では応援練習と称して放課後も拘束されているっていうじゃン？自由な時間を奪われたくないな。」

「僕にとっては野球部が有ろうが、無かろうが関係ない。」

「今までいろいろな調査があっても、要望が具体化されたってことある？野球部の問題もそう。野球部ってお金がかかるというし、部員だって十人や二十人じゃ練習にも事欠くンでしょ。第一練習場もない状態でどうやって旗揚げするっていうの。これまでにも作ろう、作ろうっていう声は高まったそうだけどどうにもならなかったンでしょ。生徒がどうしても作れ、って言ったところで出来るモンじゃないと思うけどな。そんなこと考えていたら、『部創設に賛成ですか、反対ですか』なんて真顔で問いかけている生徒会執行部なんてどうかしているとしか私には思えない。多数が賛成したからってどうするンですか？」



野球部創設アンケート結果

野球部創設問題はいよいよ正念場。サイはすでに投じられているのだ。

論説

吾人はすべからく現代を超越せざるべからず

まだ記憶に新しい、初の一般人を乗せた夢と希望のスペースシャトルが悪夢の炎につつまれてしまった「チャレンジャー号爆発事故」のニュースは人々に驚きを与え、そしてあのショッキングな生々しい映像は深く心に刻まれた。

しかしこの事件後のアメリカ国民の対応は驚きや悲しみだけでは終わらなかった。レーガン大統領はいちはやく声明を発表し、その中で〝シャトル計画続行〟を宣言する一方、悲しみをバネに新たな挑戦を企てんとするアメリカ国民の姿がオーバーラップしてくる。私はこれらをテレビのニュース番組を通して見て「強いアメリカ」「フロンティア精神」をまざまざ見せつけられたような気がした。

「オバサン精神」

「フロンティア精神」に対し日本は「オバサン精神」と呼ぶのがふさわしい。「オバサン精神」とは、危険な遊びをしている子供などに母親、いわゆる「オバサン」が「危ないからよしなさい。」と注意するところから名前をつけたものである。つまり危ないことはさける「非挑戦的精神」であり、「フロンティア精神」とはまったく正反対の精神。

この精神は我々の身の周りによくある。例えば提防などに見られる「危険ですから川原では遊ばない」なる看板。川原は昔から子供の代表的な遊び場だったはずである。たしかに子供の水難事故は多い、がしかしそれを回避せんとする余り子供たちを川原から遠ざけることに何のメリットがあろう。一昔前までは危険ではあっても川原で遊ぶことによって川という自然に接触し、そこから川を愛し、そして川の恐しさも知ったのではなかったか。「オバサン精神」はこの看板に姿を変え自然を愛する心をむしばんでいるのである。

日本の武術「空手」も「オバサン精神」の被害者である。空手はその危険性から「寸止め」なるルールが採用された。「寸止め」とは突きや蹴りを完全に決めてしまわずに、当てる直前にコブシ一つ分ぐらいあますという約束事である。この「寸止め」の採用により空手は急速にスポーツ化し、健康や美容によいといううたい文句で商売にする人が増え、完全に「武術」でなくなった。「オバサン精神」は寸止めに姿を変えて「武術」としての空手を堕落させたのである。

我々高校生も「オバサン精神」の生み出した数々の規則によって規約されている。例えば「アルバイト禁止」……〝お金をもたせると非行に走る危険があるから。不良グループと接触する機会が多く、道を誤まらせる可能性が強いから〟等々の理由をくっつけて遠ざける。これなどまさに「オバサン精神」の産物そのものといえまいか。これによって世の高校生は自分の労働で得たお金の大切さを知ることができず、親のスネをかじる甘えた〝無駄使い人間を増やしているのではないか〟近年「親子の断絶」が社会問題になっているのは、労働の苦労を知らない子供が親のありがたさがわからないことも原因の一つであろう。

「オバサン精神」は目先の危険性だけに捕らわれて、その結果によって得ることのできるものを半ば放棄してしまう現実主義的感覚で、たしかに日本の国民性の表れであるといえよう。だが、日本人は昔から「フロンティア精神」がなかったわけではない。

明治の評論家高山樗牛の「吾人はすべからく現代を超越せざるべからず」は何を意味する？

本校にもクラブ・部活一本化の波

新年度から実施

来年度から、本校もクラブ・部活動の一本化に踏み切ることになった。この問題について、既に二、三年前から学校長を中心とした先生方によって、着々と討議が重ねられてきた。現在、静岡県下で、高等学校のクラブ・部活動の一本化の傾向がより大きいと聞く。その中で開校以来二十数年間、本校は他校と違い一本化を敬遠し続けてきた。独自の方針によって校風は異彩をはなっていたと言える。それだけに、本校のイメージを変える意味で重要な改革であることは間違いない。そこで我々新聞部は一本化への学校側の真意について、検討委員のお一人である藤原先生に原稿を執筆していただいた。

変わりゆく南高

本校のクラブは、創立以来週一回水曜日の第四時限に、その活動をしてきた。また、クラブとは独立して、選手制度のもとに、あるいは自主的な教科外の活動として部活動は盛んであった。全国にわれらが校名を喧伝する部活が輩出した実績ももっている。

制度として見るとき、このクラブと部活の二本立ては、高等学校学習指導要領の精神に沿った本来の理想的な形態ではないかと思われる。それゆえに、本校が長年にわたって採用してきた制度であるといえよう。

すべての高校生が、教科の学習を離れて、自己の適性・能力に応じて、多くのクラブから一クラブを自由に選び、学友とともに有意義にしかも楽しく過ごすことは、人間性の高揚の上からみても、価値ある活動と評価できる。

さらに放課後など余暇を利用して、長時間の計画的な練習に励み、対外試合などに青春の血汐をかける部活動というものにも、多言を要しない存在感がある。

ところで、昭和五十九年度以降、本校ではこのクラブ・部活二本立てを変更しようという気運があり、幾多の検討の末、現在昭和六十一年度から一本化にすることで、すでに職員会議では合意を得ている。一本化に伴う問題点の事前調整を完了させる作業を残すのみである。

一本化への審議過程で提示されたことは、現状の二本立ては制度の上からは理想的であっても効率的な運用の面からは反省すべき問題点を、多く含んでいるということであった。要約すれば、部活動を効率的に一層活性化したいということであろう。

クラブ・部活動で成果を高めていくためには、設備、予算、指導者など必須条件が充足されなければならない。残念ながら、前記三条件はすべて限定的なものである。生徒諸君の活動を保障しその意欲に報いるためには、諸条件を配慮し、実効の上る効率的な適正規模と配置を行うことである。そのためには、クラブ・部活の一本化が本校として適切な措置であると判断したにほかならない。

ちなみに、一本化実施校は、本県では県立の場合、七〇%を越えているそうである。

昭和六十一年度からの実施の線で、現在、担当者は準備中であるが、生徒の側から見て大きな変化とは思われないだろう。

一本化の場合、名称はクラブで統一される。実質は従来、部活として活動してきたものは部活と変わらない。クラブは学習指導要領では三ケ年必修であり、全生徒が登録し活動に参加することになっている。必修の時間は、火曜日の第六時限を予定しているが、この一時間はネグレクトすると進級・卒業認定に関係してくるので、十分注意してほしい。火曜日の第六時限以外のクラブ活動は、各クラブの自主性に委ねられる。毎日活動するかどうかは、クラブ登録のとき配布する印刷物で判断してほしい。

学校としても、条件整備に努力してきたので、生徒諸君も練習に励み校風を掲げてほしい。

人を語る

情熱に燃えたあの頃

大沢　富枝先生

本校唯一の女性英語教師である大沢先生は東京女子大の英文科に在学されていました。その時先生は、千葉大学から講義に見えられていた太田三郎先生に巡り合われたそうです。太田先生の日英の比較「文学の講義の中で大沢先生は文学というものは作品の解説書に書かれたことを納得するようなものでなく、自分の心で楽しみ、感動するといった文学の心、学問をする心を学んだような気がする」とおっしゃられました。太田先生は学者としても優れた業績を残された方でしたが、学生の個々の資質を認め、それを育てるという点ではむしろ教育者といえる方だったそうです。

文学に対する太田先生の深い洞察力、学生を一人の人間としてつき合われる心の大きさに魅せられ大沢先生は太田先生を囲んで友達四人で定期的に読書会を開かれたりしたそうです。太田先生は教え子たちの向学心を受けいれて下さって一緒に作品を読まれたり熱心に指導して下さったそうです。この読書会は大沢先生の大学卒業後、そしてまた結婚後も子供を連れて合宿するなどして続けられました。学生時代から女子だからという甘やかしを許さない太田先生の厳しさは卒業した教え子にも変わりませんでした。読書会のメンバーは自分の進路に向かって歩き出していましたが、もう一度自分は賭けてみたい、その一心で先生の厳しさにも頑張り抜くことが出来たとのことです。やがて自然発生的に自分達で何か一つ成し遂げるものを、ということでメンバー全員が翻訳に熱意を感じるようになり、その結果の一つとしてD・Hローレンスの「処女とジプシー」という本を翻訳され出版手続き寸前まで漕ぎつけられたのです。ところがその矢先、太田先生がお亡くなりになり翻訳された本は自費出版されました。「その時、死というものを初めて痛感したように思う。」としみじみおっしゃられました。

「再び教職についたのも先生の死を経たことが一つの転機だったようです。先生は私達が迷っているといつも〝やってごらんなさい。〟と励まして下さったのですが、私も生徒の成長をそんなふうに援助していきたい。」と考えていらっしゃる現在、夢は五十路を迎えられる前に御自分でも推進されている女性問題について何か翻訳をすることだそうです。

次の目標に向かっていらっしゃる先生の目は終始輝いておられました。情熱に燃えて生きる力強さが感じられ、お話を聞き終わって体の中に自分なりの勇気が湧いたような気がします。

遠州灘

人類は地球の重力に打ち勝ち大空へ、宇宙へ自由に飛行する夢を求めてきた。ライト兄弟・ガガーリン・アポロ月飛行へと技術は進み、スペースシャトルも一般市民第一号として高校教師も乗り込み、宇宙からの授業を計画するまでになってきた。

無人探査でも、ボイジャー2号がはるかな天王星のベールをはがし、人々は驚異の目を見張った。

そのさなかにおきた「チャレンジャー」の空中爆発。「ケネディ大統領暗殺以来の衝撃」と例えられたこの悲劇は全世界に大きなショックを与えた。だが、この悲劇を目前にして、米国民の間に宇宙開発計画の中止を求める声はほとんどない。困難に直面して「モア・トライ」とそれを乗り越えようとする機運が強い。何故の挑戦か。「悲劇を勝利に変えることが死者の功をたたえること」だからという。

宇宙開発の先端をいくスペースシャトルは、強いアメリカを象徴する存在だった。何事においても「一等賞」の好きな米国民にとってスペースシャトルは卓越する科学技術を世界に示し宇宙という未知の分野に挑戦する米国人のフロンティア・スピリットのあらわれであった。

さらに過去五十五回、スペースシャトルになって過去二十四回の有人宇宙飛行を無事故で切りぬけた自信は米国民には、なお大きな誇りであった。

今、米国内に安全対策を問う声はあっても計画中止の声は政府、議会を通じても聞かれない。レーガン大統領は七人の乗員を「英雄たち」とたたえ、計画については「宇宙探究は続ける」と明言した。

チャレンジャー打ち上げのその日、ワシントンのスミソニアン航空宇宙博物館では大型スクリーンに拡大された〝悲劇〟に、観客は息をのみ、うめきをもらした。その観客に、館の案内人は「悲劇は残念だが、私は航空宇宙への理解を得るためベストを尽くしたい」と話し掛け、館内展示のライト兄弟が乗った第一号機から案内を始めた。悲劇に屈せぬ米国人の一断面を物語るエピソードである。

チャレンジャーの惨事は米国人の間に挫折と共に、宇宙開発への精神的高揚をも生んだようにも思う。米国人のフロンティア・スピリット・「さらなる挑戦」は果しなく続く……。

新聞部

入部大歓迎

- ◆活動日　月・水・金
- ◆活動時間　PM3:40～
- ◆次号(第75号)は7月発行
- ◆入部希望者は下記まで

新聞編集室
（北館1階購買隣）

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53-1188
旭町店　浜松郵便局前(遠鉄ビル1階)　☎54-0188
高台店　浜松・幸一丁目(ユニー前)　☎73-8118

国内旅行は赤い風船／海外旅行はMACH
日本旅行
卒業生
小幡利也
浜松営業所　浜松市田町329－20(遠鉄名店ビル北)　☎<0534>54－4371(代)
浜松駅旅行センター　浜松市砂山町官有無番地(国鉄浜松駅構内)　☎<0534>54－3501(代)

御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃 夏スカート
〃 コート
男子制服詰エリ
生地純毛日毛カシドス地
ギャバ地
御調製
大森洋服店
浜松市佐藤町　TEL ㊅ 3288

君のサクセス・ストーリーは
東海学院から始まる。
61年度
大学受験科
受付開始
《卒・高3・高2・高1》
設置コース
●昼間部……卒業生対象
●夜間部……高3生・高2生・高1生対象
国公立文系コース　私立文系コース　短大コース　高2生コース
国公立理系コース　私立理系コース　錬成コース　高1生コース
春期ゼミナール受付中!!
●期間:3/25～4/5　(開講4月6日)
●対象:新高3、新高2
大学受験問合せ先 ☎(0534)56-1791(代表)
合格カウンセラー
公認 東海学院予備校
校長 竹本孫一　〒430浜松市東田町36-8(浜松駅ソバ)

スーパーグリーン
FRESH No.1
いぐち
県立浜松南高校前
浜松市法枝町616
TEL 41－0050

谷島屋書店
YAJIMAYA
浜松市連尺町309－1　☎53－9121(代表)

共通一次　700点を取らぬことには……

基本はあくまでも授業
―三教科の先生方に聞く―

六十一年度共通一次の問題と解答が公表された。三年生で国公立を受けた人にとっては、入試への第一関門、私立を狙う人にとっては、軽いウォーミングアップといったところだろうか。現段階の制度は今年で終了し、来年からは大幅に変革されることになり、今後の入試は一層厳しくなりそうだ。最終倍率三、三倍、今年の共通一次は過去最も広き門だった昨年と同率であった。そして、その問題を実際に解いてみた一、二年生も多いだろう。そこで英語、数学、国語科の先生方に共通一次の感想と対策という題で一筆お願いした。

昭和61年度共通一次自己採点結果一覧

年度	54	55	56	57	58	59	60	61		年度	54	55	56	57	58	59	60	61	
受検者数	126	108	122	116	103	113	94	93	受験者数	660	6	6	1	5	5	4	2	4	80
全国平均	636	617	607	620	636	608	627		全国平均	650	5	6	3	5	4	1	4	4	75
本校平均	653	617	586	619	625	609	611	615	本校平均	640	9		6	4	4	2	6	2	70
900				1					200	630	9	5	3	3	5	9	3	6	65
890									195	620	6	10	6	2	9	3	3	2	60
880									190	610	6	3	8	3	6	5	2	5	55
870									185	600	4	4	6	9	5	7	8	3	50
860				2					180	590	6	5	7	5	3	7	5	5	45
850									175	580	4	3	8	2	7	8	9	2	40
840	1								170	570	4	6	4	6	3	2	2	4	35
830									165	560		1	8	2	2	7	2	3	30
820									160	550	3	4	4	5	2	6	1	5	25
810									155	540	1	7	6	6	3	6	2	6	20
800	1			1	2				150	530	4	3	6	4	1	2	3	7	15
790	1					1		1	145	520		7	6	1	1	3	3	2	10
780	3	1	1	1	2	2			140	510	1	1	4	5	3	4	1	3	5
770	2	2		1	1	1	2	2	135	500	3		3	1	4	3	4	3	0
760	2	3	1	2	1		1	1	130	490	1	2	2	2	1	1	2		
750	2	1	1	3	2	1		2	125	480		1	2	1		1	1	1	
740	4	2	1		1	1	2	1	120	470	1	1		1	2	2	2		
730	5	3		4	2	1	3	1	115	460				3	2				
720	4	2		1	2	3		1	110	450				1	1	1	1	1	
710	5	2	1	3	1	2	2	4	105	440			2			1	2	1	
700	2	2	2	3	4	4	2	1	100	430		2		1					
690	8	2	5	5	4	3	3	6	95	420	1			2	1	1	1		
680	4	2	2	2	2	3	4	2	90	以下		2	3	1					
670	8	7	4	7	5	5	6	2	85	国公立大学合格者数	39	30	29	38	33	26	20		

英語

谷野純夫先生

例年いえることだが、構文・単語ともに平易であり実力相応の点数が取れる問題である。このような問題に対処するには、日頃から多量の英文に接してきたという"経験"がものを言う。しかし、只多くの英文に接するといっても、受験生にとって時間は有限であるので効率的な勉強法について述べてみよう。第一に、授業が基本である。特に発音・アクセントについては、平常の授業でまじめに音読することが肝要である。また、精読という点においては、授業に勝るものは何もないのである。第二に、授業だけでは不足である。授業は必要条件であり、十分条件ではない。というのは、テストにおいては、常にある程度のスピードが要求されるからである。特に共通一次においては、要領よく解くことが大切である。一般的に言えば、配点の大きい文章読解にできるだけ時間をかけるために、単語・熟語・文法事項等の小問及び語順整序問題はほとんど条件反射的に解けるようにしておく必要がある。市販の共通一次対策用問題集をくり返し演習すればよい。次に得点に一番影響する文章読解について述べる。まず、根本的には幅広い教養が必要であるということ。次に、ジャンルを限って多く読めということ。近年科学的な文章が一番ねらわれている。次に社会について。この点で理科・社会も軽視するわけにはいかない。文学よりも、エッセイや評論調の英文を多量に読んで内容を要約する訓練を十分しておくこと。あと一年弱、平均一五〇点めざして頑張ろう。

数学

袴田潤先生

本校生の数学の平均点は一三六点（全国平均一二五点）で二〇〇点満点が三人いた。問題は基本的であり、毎日の授業への取り組み方で高得点をとり得る。問一は直角三角形の応用問題で中学校の内容である。問二は二つの円の重なる部分の面積を求める。問三は解と係数の関係を用いての応用問題。問四は一つのベクトルを二つのベクトルを用いて表わす応用問題。問五はサイコロを用いての確率問題。問六は二次関数のグラフと面積を求める問題。

毎日の授業の大切さを痛感する。五十分の授業内容に対し、先生方は少なくとも一時間以上の教材研究をされる。授業を演劇にたとえることができる。教師は脚本家であり演出家であり舞台監督である。この仕事は多様を極める。一時間の授業がうまくいくための大きな要素に主役である生徒諸君の学習力がある。学習力とは目標、計画の実践力である。生徒の学習力と教師の教育力がうまくかみ合ったとき、授業の密度が濃くなり、感動が生まれる。この感動こそ教育の原点だと思う。

国語

青嶋甲子雄先生

実施直後から今年の国語は難しいと言われ、過日の中間報告でも、国語の得点は低かったようだ。日本史の難化と物理の易化も関係して、文系志望者にとって厳しい二次出願となった。

さて、今年の国語は本当に難しかったのか、過去8年の出題との比較は受験雑誌や予備校にまかせておくとして、私は日頃の授業を基準にして、その難易を区別したい。

第一問は日本と西洋の「近代化」観念についての評論。難解な部分も散見されたが、明治初期の歴史的な知識があれば、内容把握はしやすかったと思う。また設問の多くは、論理的な内容理解力を試すもので、国語Ⅱの小林秀雄、加藤秀俊らの評論を丁寧に読みとる力があれば、八割方の正答はできたはずだ。

第二問は長塚節の小説「土」の冒頭部分。一言で言えば、鑑賞力が試された。中でも問二、問五、問七は文章を味わう力がなければ歯が立たないと思う。国語Ⅰの「羅生門」、国語Ⅱの「山月記」、「こころ」にあった時間、雨と雲、にきび、月、などは主人公の心理とどの様にかかわり、どんな効果を得ていたか。日頃の授業をきっかけにして、小説に親しむことが大切で、丸暗記型の勉強ではなかなかこの力はつきませんね。その他は簡単。

第三問は「和歌威徳物語」からの出題。聞き慣れない作品だが、「大江山」とくれば、冬休みの課題の「百人一首」。ちょっと勉強してあれば、大体の筋はつかめるはずで、それにそった問は全問正解で当り前。他の敬語、歌人については、国語Ⅱの「枕草子」、「大鏡」の学習で、指導のポイントとして教えられているはずだし、歌人については古典の常識。

最後は漢文。国語の中でも難しいと言われたが、問4の二重否定の読みを除けば、何とかなったと思う。「孟子」について述べられたものでも、思想の深部に及んだ設問はなく、全く思想について知識のない者でもそうそう慌てる必要はない。ただ文中の「一、駒、迂、厳、際」など、よく見る漢字の意味を正確にとらえられたかが勝負。

以上によって2年生は一三〇点、1年生は一〇〇点とれて南高生合格！……。ちょっと甘いかな?

---

sophomore

本年度期待のホープ

男子テニス部

加藤元一君

前回の部活紹介では、サッカー部をとりあげた。そこで今回は団体競技のサッカーに対して個人競技の華、テニスにスポットをあてた。南高の男子テニス部は過去に数々の栄冠を獲得し、その伝統は今にうけつがれてきた。――さてその強さの秘密は何処に？

ここ数年来の男子テニス部の目覚ましい活躍。例えば、一昨年のインターハイ県予選団体戦優勝、昨年の太田・原口組インターハイ出場など、数々の戦歴をあげれば、だいたい察しのつくところであろう。まさにここ数年の男子テニス部は、南高の部活動の顔として、また風格をも持った牽引車として、各部をリードしてきたといっても過言ではない。

そんな中で、今年のテニス部は……と考えた私達なのだがやはり今年も、例年通りの活躍が期待できそうである。そこで期待の選手の中から、25HRの加藤元一君にスポットを当て、部活動全般についてや、熱意ある心の内を語ってもらうことにした。

まずは彼のこれまでの主な試合成績を列挙してみることにしよう。

・一年生大会　シングルス
　　　　ベスト8
・東海ジュニア　シングルス、
ダブルス（24HR杉山雄司君とペア）　各3位
・新人戦西部大会
シングルス　ベスト8
ダブルス　ベスト8
　県大会
シングルス　ベスト16
ダブルス　ベスト16

優勝こそないのだが、どの大会においても、安定した力を発揮していることがわかってもらえるだろう。特にここ西部地区は、レベルの高い地区である。浜松北高、浜松湖東高といった強敵高があるだけに、勝ち進むことは至難の技といえる。しかし、このような土壌の中でもまれ、鍛えあげられることによって、彼の兼ね備わった実力が、試合時に包まれる異様なプレッシャーに押しつぶされず、発揮できていることは確かである。

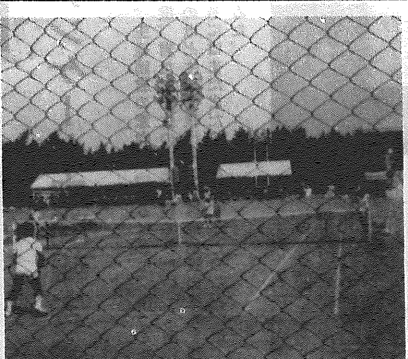
次に部活の練習内容について聞いてみたわけだが、やはり、かなりきついメニューをこなしてきたようである。

一年のうちは、まず足腰の強化から始まるそうだ。毎日3・4キロのコースを13分以内で走ることを義務づけられ、これを約6ケ月間続ける。現在でも放課後、ストローク、ボレー、スマッシュ練習などを3時間ほどこなした後、4キロほどのコースを毎日かかさず走っているそうだ。持久力も重要な要素として入ってくるテニス競技。やはり、走ることが何よりも大切になってくるようだ。

『インターハイ出場』

これが彼の現時点での最大の目標だという。その中でも彼は『浜松北、湖東を破って団体戦で優勝！』

これを真っ先に言い出した。


活躍するテニス部

もちろんシングルスもダブルスも共に出場ができればとも言った。しかし私達が考える限り、彼が望まんとしていることは、厳しい練習に共に耐えてきたチームメイトとの出場であるし、ましてやそれが、実力を認め合う両校を破っての出場となれば……ということなのであろう。

このように、いくつかの質問を彼になげかけていくうちに、彼のテニスに対する情熱、目標への執着心を肌で感じとることができた。

今回は、彼一人を取り上げてみたわけだが、もちろんテニス部の中で彼一人だけが期待されているわけではない。24HRの杉山雄司君、関口剛君、根木重人君らも、「インターハイをねらえる選手」（浅井先生談）とのことである。彼らも一人一人確固たる目標を掲げて、日々の練習に打ちこんでいるに違いない。そんな彼らに、その目標が達成できる日がくることを祈ってやまない。

羽撃ける青年たちへ

三年生の皆さん御卒業おめでとうございます。"青春真っ盛り"の高校生活から新たな一歩を踏み出すという人生の岐路に立たれている皆さんには「卒業」というたった二文字の中に様々な想いが込められることと思います。新聞部では、南高を巣立って行かれる皆さんへ向けて高校生活をある時は励まし、ある時は叱咤して下さった先生方に、はなむけの言葉を添えていただきました。人には生きることに挫折しそうな時、そこから立ち上がるための歌や詩や言葉があるものです。以下の贈る言葉を人生を開く足掛かりとして下されば幸いです。後輩からの一言も是非ご一読下さい。

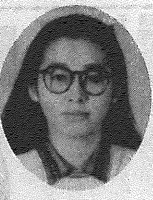
坂上敦志先生

卒業生諸君へ

友とするにわろきもの七あり　一には高くやんごとなき人、二にはわかき人、三には病なく身つよき人、四には酒を好む人、五にはたけく勇める兵、六には虚言する人、七には欲ふかき人。よき友三あり、一には物くるる友、二にはくすし友、三には知慧ある友。

吉田兼好「徒然草」より

近藤幸子先生



三年生の皆さん御卒業おめでとうございます。就職、進学それぞれ活躍する場所は違ってもこれからの生活で初めてあなた方の個性が評価されることになるでしょう。新しい環境の中でなんだこんなものかとなんとなく適当に過ごすのか、前向きにチャレンジして自分を磨いてゆくのか…。高校時代を人から与えられたものをただこなして過ごした人が多いように思われます。今度は目標を自分で見つけて行動できる人になって下さい。

袴田潤先生

ほほえみ

私の好きな詩に「もし、あなたがだれかに期待したほほえみが得られなかったら、不愉快になるかわりにあなたの方からほほえみかけてごらんなさい。なぜならほほえみを忘れた人ほどそれを必要としている人はいないのだから。」がある。心をいやすものが心でしかないように心を満たすものも心でしかない。

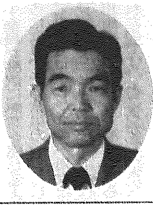
安易な人生を求めるよりも、強い人となること、自分に相応した仕事を求めるよりも、与えられた仕事を果たす力を祈り求めることを忘れてはならない。

後藤義則先生

明るい思念を抱こう

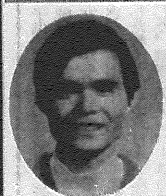
成々が困難や苦痛に直面した時、それに耐えそれを克服する勇気と力を与えてくれるものは、心理的には今の自分が抱く希望と光明への確信のみである。直面した困難や苦痛は、成功や幸福を実現するための妙薬と観じて感謝しよう。例えば体の発熱は自分の体の自然の治癒作用だという。暗いこと、悪いこと、苦しみ、悲しみの念を捨てて、明るいこと、善いこと、喜び、楽しさを念え、光明は光明の思念が招く。

鳥羽勤先生



何もしなかったので副担として何か書けと言われると心苦しい。ただ、英語の授業と庭掃除を通して一年間つきあったから35HRの実体をつかんでいるつもりである。授業は全員前向きで向学心、知的好奇心ゆたかなクラスである。しかし、中に性的好奇心が旺盛なものもいて往生したこともある。総じて、若者らしい、男っぽい、根アカでさわやかな集団であった。このまゝ卒業してしまうのが惜しい気もする。

田中哲彦先生

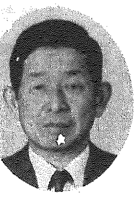


（心をコメテ一言）

ご卒業おめでとう。お元気で、ご活躍下さい。

さようなら

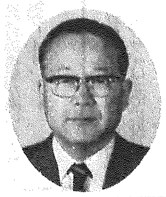
大村隆三先生



副担とはいえ、オール・ギャルズのクラスの受持ちになったのは教師になってはじめて。だから記念すべき一年。しかも、かわいい子ばかりのクラスとあれば、これで毎月給料をもらってよいのかと……（つい年甲斐なく筆が走りすぎた。）

もっと勉強したらとか、頭髪などもう少しけじめをとかは、今更別として、明るい雰囲気のクラスだったことは大変よいことで、高校生活のよい思い出として貴重なことと思います。

三村総之助先生



わが道を開く

事務のOA化の進展により事務職を採用する企業が激減している今日、求職者に倍する事務職への求人は、本校商業科への期待の一端をあらわしているものであり、社会人として巣立つ諸君への企業の期待は大きい。仕事は与えられるものではなく自ら創り出すものだという。人は困難を一つ乗り越える度に何ともいえぬ充実感を覚えるものである。

頑張れ！　卒業生諸君の健康と活躍を祈る。

在校生から

三年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。月日がたつのは早いものだと言いますが先輩方がこの南高で生活をしてはや三年という年月がたちました。高校生活というものは、とかく人生の輝く時を過ごすといわれています。これまで勉強というものをしてくる間、時にはそれが自分にとってあまり重要でないように思われたこともあったかと思います。しかし、先輩たちにとってあとわずか二年で選挙権を得る年齢に達するわけです。すると、政治がどういうふうに行われるかについて、社会科で学んだことがいかに役立つかがわかります。また卒業して仕事につくかたも多いわけですが、その仕事は、自分が何をどれだけ知っているかによって決定されるわけです。やはりあとになって、重要になる事が多いようです。ですから、この高校生活を無駄にしないように一生懸命がんばって下さい。それぞれ自分の選んだ道へと歩みはじめる先輩方、この思い出がたくさんつまった南高を誇りに思い、心の支えとして人生をすばらしいものにしていって下さい。

校内TOPICS

御長男誕生

谷野先生

去る一月三日、英語課の谷野純夫先生に御長男が誕生した。その名も「祐一」君。新聞部では、「我が子の誕生」にますます張りきる純夫パパに、今の心境などを語ってもらった。

――この度はおめでとうございます

どうも有難う。

――奥さんが妊娠されたと知った時、どのように思われましたか。――

「ああ、僕もいよいよ父親になるのか。」なんて、わりと気楽に構えてましたね。いや、あまり実感が湧かなかった、という方が正しいかな。

――生まれたお子さんを初めてご覧になった時の感想は。――

やはり「かわいいなぁ」と思いました。それと、「こんなに小さくて無事に生きていけるのかな。」とも思いました。

――祐一君は父親似ですか。――

耳たぶの大きなところが僕とそっくりなんです。（笑）

――先生はおととしの六月に結婚なさって「夫」となり、今年はお子さんが生まれて「父親」となられたわけですが、独身の頃と比べて変った点はありますか。――

うーん。結婚して旦那になった時はこれといって変わらなかったですね。でも、今回、子供が生まれて、仕事が終わって疲れて家に帰り、子供の顔をじーっと見たりしていると、「ああ僕も父親なんだ。もっとがんばらなくっちゃ。」なんて考えるようになりましたね。

――最後に、祐一君にはどんな子に育ってほしいですか。

「思いやりがあって、人との和を大切にする子」に育ってほしい。それと、自分の進む道は自分で決めて、精一杯その道を歩んでいってほしいですね。

谷野祐一くん

編集後記

植物は太陽の位置や昼の長さから春の訪れを正確に知るそうです。桜の冬芽も活発に生長を始める時、花芽の日ごとにふくらみを増し、堅くおおっていたリン片が一枚一枚ぬぎ捨てられるのもそう遠くないようです。

三年生のみなさんはいよいよ卒業ですね。あっという間の高校生活だったことでしょう。今思いなおしてみるといろいろな思い出が頭の中を巡ることと思います。新しい世界へ旅立つ皆さん、大きな目標や希望を持って力いっぱい頑張って下さい。

さて、我が新聞部も本年度最後の新聞、第七十五号を発行するに至りました。本号では、「野球部創部」、「部活・クラブ一本化」などの記事を掲載しました。学校生活についてのタイムリーな話題を取り入れていこうも努力してみましたがご感想はいかがでしょうか。まだまだ未熟な点もあり、読者の皆さんが感動するような記事は少ないと思います。部員一同、よりよい学校新聞をつくるように努力していきたいと思っています。

学校法人　河合塾
―〈抜群の合格実績〉―
新年度塾生募集
豊橋校・千種校・名駅校・名古屋校
◎大学受験科（高卒生）
◎高校グリーンコース（高1生～高3生）
◎芸大進学コース
お問合せ：浜松市田町324―3　住友生命浜松田町ビル　☎〈0534〉53―5581

コンタクトのアイシティ浜松
O_2透過性コンタクトがさらに進歩！
今がチャンス
新発売
最新の材質が酸素をよく通し、やわらかく水ぬれ性に優れていますので、装用感がさわやかで、瞳に無理な負担がかかりません。毎日のお手入れも簡単です。ハイドロケアや煮沸消毒はいりません。
瞳イキイキ、酸素がかようコンタクト
オールメーカー
コンタクトレンズがな、なんと
学生ご優待価格で！
瞳イキイキ、酸素がかようコンタクト
HOYA HARD OP（オーピー）
●受付時間　10:30A.M.～6:30P.M.
●休　日　水曜（日曜・祭日は平常通り）
☎0534(55)1383㈹
〒430 浜松市旭町11-1 プレスタワービル8F

今年の夏、キラキラ青春！
海に山へ　北海道に沖縄
お申し込みお問い合せは
西武デパート前
あなたの街の
日本交通公社浜松支店
浜松市鍛冶町312―18番地
TEL　53―2111番㈹

本とレコードの店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館
☆広い店内には本あり、レコードあり、ビデオあり
まさに文化を楽しむお店です。
夜10時まで営業/駐車場70台
MAP
イケヤ
本店　浜松市田町有楽街　〈0534〉52―5151
鍛冶町店／文楽館高林店／ユニー泉町店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／袋井店／浜北店

部員募集　地歴部